

タカラコラボラボ 第10回・第1期第10回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和6年(2024年)12月18日(水)10:00~11:30
開催場所	第二庁舎 会議室AB
次 第	1 開会 2 議事 (1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について (2) 協働の事例集の更新について 3 その他 4 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、大関委員、上田委員、岡田委員、橋之爪委員、龍見委員
開催形態	公開(傍聴人1名)

## 1 開会

事務局から、本日の出席者は9名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は1名であることを報告した。

## 2 議事

### (1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について

#### ア つながりカフェ(川西市)視察報告

表記について事務局より資料に基づき報告を行い、意見交換を行った。

(ア) (事務局)報告は以上になるが、一緒に参加したお二人の委員にもご感想をいただければと思う。

(イ) 参加人数で評価したり、何かを決める場ではないということを最初にしっかりと伝えて、参加者全員が理解して実施することで、余裕をもって話を聞くことができた。参加している目的が明確になっていないから取り留めのない話を聞いていられないとなる人もいると思うが、自由に話しているという雰囲気で、肩の荷を下ろして個人の立場で話を聞いたのが良かった。また、市民協働推進課の方も来られていて、この場ではあまり聞けない話を聞いたのが良かった。私たちが始めるつながりカフェも審議会とは違う雰囲気になればいいと思った。

(ウ) つながりカフェのような場にあまり参加したことがなかったため、何を話したらいいか戸惑うだろうと思っていたが、まったくそのようなことはなく、本当に何を話してもいいような柔らかい雰囲気だった。自分の活動

のことを話す機会があっても、個人のことを話す機会はあまりなかったのが新鮮だった。つながりカフェに200回くらい参加されている方も、初めて参加した人も、お互いにフランクに話すことができるのは、受け入れる体制がしっかりしていて、ルールを決めて実施されているからだと思った。参加者の年齢層も幅広かったが、普段聞けない方の話も聞くことができたので良かった。

#### イ 第4回作業班の報告

表記について報告者より資料に基づき報告を行い、意見交換を行った。

- (ア) (報告者) 報告は以上になるが、作業班に参加された方から補足意見等があればお願いしたい。
- (イ) アンケートがGoogle フォームとなっているが、川西市のつながりカフェの時にアンケートはあったのか。
- (ウ) (事務局) なかった。
- (エ) Google フォームは後から回答してくれる人が少ないと思うが、どう思うか。
- (オ) 例えばGoogle フォームの二次元コード印刷した紙をその場で配って、その場ですぐ回答をお願いしますと声掛けをすれば、ある程度は回答していただけるのではないかと思う。
- (カ) つながりカフェは、目的や成果を求めないものだと思うが、団体や組織に所属する者にとってはかなり難しいことだと思う。私も含め、団体や組織に所属する方がどのように動くのかということにとっても興味がある。どのように進んでいくのか楽しみにしている。
- (キ) 私は今まで、何か目的があって集まることがほとんどであった。例えば仕事終わりの飲み会はお酒を飲むという目的ではなく他に目的がある。自分が話したい話をして、和気あいあいとした雰囲気になると、飲み会のように感じて、つながりカフェに行くことを恐れている。成果を求めず、ただ話をするとすると、何を目的に行けばいいのかと困ってしまう。川西市のつながりカフェに参加されて、自分のためになることがあった方は教えてほしい。
- (ク) 私はとにかくたくさん人の話を聞きたいという興味関心が強かった。テーマを決めて集まると、テーマに沿った話しかできない。その後フリータイムがなく、会議等で集まっても話すことがなければ、その人のことを知る機会があまりない。
- (ケ) レッスンや会議で集まった方々が、終わった後に飲食店で2時間くらい話をして帰る。どちらかというと、レッスンや会議後の飲食を楽しみに集まっている方もいると思う。そのような雰囲気は、成果を求めてきた世代からすると恐れを感じる。つながりカフェに参加された方々のつながりはできると思うため、それが目的であればいいのではないかと思う。

- (コ) 何度か川西市のつながりカフェに参加した感想だが、初めて参加した時は、ファシリテーターの方と別件で話があり、その後、よかったら参加してくださいということで参加した。重苦しい会議で何かを決めないといけないという経験しかなかったが、同じようにテーブルを囲んで話をするが、テーマなしで好きなことを話して、人の話から自分の知識になることもあるし、意見交換ができる場合もあるのだと感じた。自由な雰囲気というのが個人的にすごく新鮮で、ほのぼのとした雰囲気の中で心が安らげる時間が過ごせるということで、半年くらい通っていた。こういった場所が宝塚市にできるというのは大変嬉しい。
- (サ) 宝塚市で実施するつながりカフェで期待するのは、TaCoLAB メンバーだけではなく、ゲストが来るということ。ゲストで参加してくれた方々がつながり、カフェの雰囲気を味わって、次のプレイヤーにつながっていくことを期待している。だから、あまり堅い雰囲気だと嫌われてしまう可能性もある。参加してくれた人にはこんな雰囲気の中でつながりができるということを知ってもらって、何か自分がやろうとしたときにつながりカフェのことを思い出してもらい、様々な発展につなげてもらいたいと思う。誰かが話をしてそれを聞くという方法よりも、できるだけ自由に参加する機会を作っていきたい。つながりカフェを何度も実施して検証していけばよいと思う。ケ委員がおっしゃられていた懸念も、実際にやってみてどうなのかという振り返りをしてほしいと思う。目的はプレイヤーづくりであるということをお忘れではない。
- (シ) (会長) 先ほどのテーマ設定について、私も以前、川西市のつながりカフェに通っており、最近はなかなか行けていないため、また行きたいと思っている。ふらっと寄れるのは、やはりテーマがないところがポイントだと思う。いつも同じスタイルで、顔なじみの人がいて、初めて参加する人もいという雰囲気が魅力だと思う。つい、ネガティブなことを話してしまうこともあるが、誰も批判せず、受け止めてくれる。

## (2) 協働の事例集の更新について

### ア 事例集に掲載する10事例の事務局案について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) 一緒にプロジェクトについて、前回の事例集に載っていたと思うが、同じ内容を載せるのか。
- (イ) (事務局) 一緒にプロジェクトは、前回の事例集に掲載した事例の一つだが、現在も活動が継続しており、展開も変わってきていると聞いている。新しい事例の中に、以前掲載した事例が現在どうなっているかというものがあって面白いと思ったので候補に入れた。
- (ウ) 掲載する事例にはある程度継続性が必要だと思うが、継続性はあるのか。

- (エ) (事務局) すべての事例を聞き取ったわけではないが、来年度以降活動を終了するという事例は聞いていないため、ある程度の継続性はあると判断し選んだ。もし委員の皆さんの中で情報があれば共有いただきたい。
- (オ) 私が活動している事例はつながりカフェと一緒に、場所は提供するので自由に参加して、自分の思うことをやってくださいという発信で活動している。継続すると活動の内容が変わるかもしれないという不安はある。数人で構成している子育て支援団体や小さなカフェをしている人など集めて活動しており、当日にスタッフとして自治会やまち協も関わるが、企画は任せている。今後も続けていくことは決まったが、統制が取れていないことや役割分担がちゃんとできていないのではないかといった不満も少しある。
- (カ) 私も少しオ委員の活動に関わっていて、活動内容は主に2つある。1つ目はその地域の中でできるだけ活動に参加してもらおうというもの。2つ目はある公共施設に集まってイベントをする。後者は成功していると思う。先ほどオ委員が言われたように、自分たちで企画して、提供された場所でイベントを実施する方法を今後どうしていこうかという話をしている。つながりの場があり、その場所でお店や舞台など自分たちがやりたいことをしてもらおう。後者の部分は、手助けしてくれる活動者がいるため、継続が可能であると思う。
- (キ) そういった人がプレイヤーになるのではないかと思う。若い世代の方々に自由に活動をしてもらったほうが、今までと違う発想が生まれるので、私たちも新鮮に感じる。
- (ク) そういう場は団体のPRの場にもなる。
- (ケ) 活動の内容等を表現するために文章を考えないといけないのか。
- (コ) (事務局) オ委員はインタビューを受けていただく立場になる。
- (サ) 活動の内容が事例集に掲載された時点と、その後の展開によって内容が変わってもいいのか。
- (シ) (事務局) 活動の内容が変われば、次回の事例集に掲載することもできる。今後展開が広がることも期待できるため、今回作成するときは現状を記載し、その後の展開は今後作成する事例集で紹介することができればいいと思う。サ委員の意見はすごく大事なポイントだと思う。
- (ス) 今回選ばれた事例は断られることはないか。
- (セ) (事務局) 一旦この10事例を候補として決定し、相手方に意図などを説明したうえで、協力を依頼することになる。ただ、10事例の中にも実際に携わられている主要メンバーが委員の中に何名かいらっしゃるため、断られることはほとんどないと思う。
- (ソ) (会長) では、この10事例で決定しようと思う。

## イ インタビュー項目について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) 長期活動期間の長期は具体的に何年くらいを考えているのか。
- (イ) (事務局) 明確に決めているわけではないが、10年継続していれば長期であると思う。ただ、5年でも長期と考える場合もあると思うので、その団体の継続年数に応じて、継続できたコツを聞き取っていただきたいと思う。
- (ウ) (事務局) インタビューシートは、相手方にすべて埋めてもらうというよりは、インタビューをした人がシートに沿って聞き取っていくイメージ。事例集のイメージは、写真なども組み合わせて見開きで1枚のイメージ。
- (エ) (会長) インタビューの項目と何人体制でインタビューを行うのかが関係してくる。例えば、インタビューの時は聞く人と、記録する人で分担するのがいいと思う。

#### ウ グループ分けについて

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) インタビュー時、録音は可能か。
- (イ) (事務局) 相手の了承の元、録音をしていただきたい。
- (ウ) 最終、記事におこすのはどのようにする想定か。
- (エ) (事務局) 大まかな流れになるが、インタビューをしていただいたメンバーのうち1名に記事の案を考えてもらいたいと思っている。案をもとにインタビューをした2人のメンバーや作業班で校正をしながら作っていただくと思っている。
- (オ) (会長) 全員がインタビューに行って校正をする想定か。
- (カ) (事務局) 10事例を委員2名と市職員3名で、委員1名で2事例のインタビューに行っていただくことになると思う。まず、決まったグループで役割分担し、インタビューを行っていただく。事例の掲載順といった校正は作業班で行っていくことになると思う。作業期間としては大体3、4カ月ほどになる想定で、2月ごろからインタビューを開始できればと思っている。
- (キ) インタビューの日程調整は事務局でもらえるのか。
- (ク) (事務局) まず10事例の団体にインタビューの同意をいただき、日程調整を行う。日程調整は事務局でしようと思っているが、委員で調整したほうが効率的な場合と思うので、インタビューのグループ分けができてから決めさせていただきたい。
- (ケ) 相手方の活動場所に出向いてインタビューをする想定か。
- (コ) (事務局) 相手の都合のいいところに出向くのが一番いいと思っている。作業期間は、ある程度長めに考えて対応していきたいと思う。完成時期は決まっていないが、委員の任期があるので、任期中には完成させたい。写真は相手方に提供してもらった方がいいと思う。
- (サ) 委員が関わっている事例は他の委員がインタビューするのか。

- (シ) (事務局) そのイメージをしている。インタビューに行きたい団体の希望との調整もあるが、直接関わっていない委員に行っていただくようグループ決めをする。
- (ス) アウトプットはWebページに掲載する想定か。
- (セ) (事務局) 前は冊子を発行したが、今回はWeb上にPDFデータで掲載を考えている。
- (ソ) Webページに直接掲載する場合は、レイアウトやデザインを気にしなくていいので作業効率がいい。
- (タ) PDFデータにすると、デザインをしないとイケないし、サイズとかに制限がかかる。
- (チ) Webページにはそのまま文章を載せるが、冊子になったものを市のHPに載せるということか。
- (ツ) やはり印刷する機会はあるということを見るとPDFになるのではないか。
- (テ) (事務局) 基本紙で発行する想定はしていないが、紙での印刷の希望があったときには対応したいと思っている。
- (ト) Webページに掲載する場合、原稿を作るためにライティングの段階から作業班ですするという話だったが、ライティングに関わっていない人も作業班に入るとかなり時間がかかると思う。また作業班にインタビューされた側の委員がいるとなると作業が煩雑になると思うので方法を考えたい。
- (ナ) (事務局) 検討する。
- (ニ) 団体によってインタビューの項目数に差が出てくると思うが、そこは最終的なボリュームをイメージしながらインタビューをする想定か。
- (ヌ) (事務局) 事例集は見開き1ページのイメージを持っているため、団体によって文字数や写真の数に差があるのは問題かと思う。写真も入れながら、今の事例集のような形式での完成を想定している。
- (ネ) インタビューに行った人がライティングをして記事の案を作る想定か。
- (ノ) (事務局) そのように考えている。
- (ハ) 案を委員全員で修正し、チェックしていく想定か。
- (ヒ) (事務局) そのようには考えていない。
- (フ) 記事の案を作った時点で相手方に確認をしていただかないといけない。委員で議論するときは相手方の了承を得た状態でないといけない。キャッチコピーなども含めて相手方にチェックしてもらう必要がある。
- (ヘ) (事務局) 今日いただいたご意見について検討し、インタビューについての具体的な工程とスケジュールとグループ分けを次回のTaCoLABでご提示したいと思う。

### 3 その他

4 閉会

以上